

科目名	公衆衛生学	科目分類	<input type="checkbox"/> 基礎教育科目 <input checked="" type="checkbox"/> 専門教育科目
			<input checked="" type="checkbox"/> 卒業必修 <input checked="" type="checkbox"/> 栄養士必修 <input type="checkbox"/> 選択
		開講年次	<input type="checkbox"/> 1年 <input checked="" type="checkbox"/> 2年
英文表記	Public Health	開講期間	<input type="checkbox"/> 前期 <input checked="" type="checkbox"/> 後期 <input type="checkbox"/> 通年 <input type="checkbox"/> 集中
ふりがな	かわい きよひろ	授業形態・修得単位	講義 ・ 2 単位
担当教員名	川合 清洋	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用
		実務家教員担当科目	
授業のテーマ	公衆衛生学は、地域社会の組織的な努力により疾病を予防することから寿命の延長を図るとともに身体的並びに精神的能力を増進するための技術と知識を修得する科学であることを理解する。		
授業概要	個々の対象のみならず公衆すなわち人間集団の健康を考えた領域で、「社会」、「環境」、「生活習慣」、「社会保障制度」、「健康にかかわる統計資料」などについて栄養士に必要な知識の修得ができるようビジュアル・エイドの活用を図り学修の理解度を高める展開を図る。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・社会や環境がヒトにおよぼす影響について理解できる ・疾病の予防、健康の保持・増進に役立つ知見・知識について理解できる ・健康に関連する種々の統計上の問題点についての確認と内容が理解できる 		
授業時間外の学習	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習としてテキスト・資料の一読 (30分) ・事後学習として、レポート作成 (文献検索を含む) (60分) 		
授業時間外の学習	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習として、テキストの購読 (1時間) ・事後学習として、テキストの章末問題に取り組む (1時間) 		
履修条件	基礎科学、食品衛生学等の基礎内容を十分に理解していること		
授業計画			
第1回	テーマ： ガイダンス、公衆衛生とは一定義—		
第2回	テーマ： 社会と健康—公衆衛生の概念—		
第3回	テーマ： 環境と健康—生態系と人々の生活—		
第4回	テーマ： 環境と健康—環境汚染と健康影響—		
第5回	テーマ： 環境と健康—環境衛生—		
第6回	テーマ： 健康、疾病、行動に関わる統計資料—人口静態統計・人口動態統計・生命表・傷病統計—		
第7回	テーマ： 健康状態・疾病の測定と評価—疫学概念と指標、根拠 (エビデンス) に基づいた医療とは—		
第8回	テーマ： 生活習慣の現状と対策—健康に関連する行動と社会、身体活動、運動—		
第9回	テーマ： 生活習慣の現状と対策—喫煙行動、飲酒行動— 小テスト、		
第10回	テーマ： 生活習慣の現状と対策—睡眠、休養、ストレス、歯科保健行動—		
第11回	テーマ： 主要疾患の疫学と予防対策—がん、循環器疾患、代謝疾患—		
第12回	テーマ： 主要疾患の疫学と予防対策—骨・関節疾患、感染症—		
第13回	テーマ： 主要疾患の疫学と予防対策—精神疾患、自殺、不慮の事故、虐待、暴力—		
第14回	テーマ： 保健・医療・福祉の制度—社会保障について—		
第15回	テーマ： 保健・医療・福祉の制度—医療制度・福祉制度—		
第16回	定期試験		
テキスト	武山英麿・中谷弥栄子 「公衆衛生学・健康管理概論 社会・環境と健康」 第一出版		
参考文献・資料	木村美恵子 他 「公衆衛生学 第3版」 化学同人		
成績評価の方法	出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。 小テスト 20%、課題レポート 10% 定期試験 70%		
成績評価基準	秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下)		
オフィスアワー	水曜日 16:20~17:30		
受講生に望むことと受講のルール	ヒトの健康と社会との関わりについて、諸々の統計データをもとに理解するとともに、将来の病気・疾病の予防を個人及び社会全体に対して役立てて欲しい。		